

◆NEW

現在、アメリカの「Amazon.com」にアクセスすると、いきなり同社CEOジェフ・ベゾス氏による女性作家の紹介・推薦文が現れる。これまで、こんなことはなかっただけに、驚かされる。

紹介されているのは、ジェシカ・パークさんという、プリント版の出版界では無名の女性。彼女は、Kindle向け個人電子書籍出版サービス「Kindle Direct Publishing」を使って作品を発表したところ、最近、作品の『Flat-Out Love』がトップセラー入りを果たしたというのだ。これまでのパークさんは、さまざまな出版社に原稿を送ってはボツにされてきたが、ついに、アマゾンが用意したセルフパブリッシングサービス「Kindle Direct Publishing」によって、作家として認知されたというのだ。



この紹介文によると、現在、Kindle向け電子書籍トップ100のうち22作品はこのような無名の個人作家たちによる作品だという。アマゾンの電子書籍サービスが、こうした無名の作家を発掘し、メジャーにすることができることはわかっていた。しかし、ここまで露骨に「どうだ。みなさん、見てください」と言われると、首を傾げたくなる。

作家と読者の間に編集者や出版社が入らないセルフ出版で、はたして作品のクオリティが保たれるのか？ 電子書籍時代が進んでいくと、こうしたことが当たり前になるのか？ そうした疑問に対する答が彼女の作品とはとても思えない。